

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	英語	分野	基礎分野	講師名	関井 純子
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	後期
授業方法	講義	・	実技	・	実習

授業目的	海外に目を向け、積極的に英語を学ぶ意欲を育てる
授業内容	1 実践的な会話練習（受付や施術時に使う表現） 2 ディクテーションや音読などの言語活動
到達目標	柔道整復師として必要な英会話ができる
成績評価	授業内に行う筆記テストと定期テストの合計点数により評価する
教科書 教材	自作プリント
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	生命科学	分野	基礎分野	講師名	高島 浩一郎
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	生命を理解するための基礎、および、血液の働きを深く理解させることを目指す。その理解を基に、治療家としての仕事、および、他の教科の学習が、向上することが期待される。
授業内容	生命の基礎、および、血液について、働きと仕組みを説明し、視聴覚教材を活用して理解を深め、問題を解くことにより定着させる。
到達目標	生命の基礎と血液の働きについて、患者さんが質問してきた際にわかりやすく説明できるまで深く理解することを究極の目標とするが、授業ではとりあえず、小学生の兄弟姉妹がいると仮定した場合に、彼らが理解できるように説明できるまで深く理解することを目標とする。
成績評価	試験の結果を主に、レポート点を加味して評価する。
教科書 教材	生理学（南江堂）を教科書とし、手製プリントを参考資料として配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	基礎 運動学	分野	基礎教科分野	講師名	杉山 渉
単位数	4単位	履修学年	1 学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	運動学は、身体の構造と機能を学習することにより、身体のメカニズムと運動の様相を理解する。身体運動の理解に必要な生体力学や、全身の主な関節の運動、筋の機能について理解する。さらに、姿勢や歩行について学習し、人間の動作について運動学的観点から理解する。
授業内容	(前期) 1. 運動学の目的 2. 運動の表し方 3. 身体運動と力学 4. 運動器の構造と機能 5. 神経の構造と機能 6. 運動感覚 7. 反射と随意運動 (後期) 8. 四肢と体幹の運動 9. 姿勢 10. 歩行 11. 運動発達 12. 運動学習
到達目標	【実践力】 基本的な身体運動を表現することができる。 【生涯学習力】 復習を通して、自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図ることができる。
成績評価	期末試験に出席状況、授業態度等を加味し、総合的に評価する。
教科書 教材	「運動学」(改訂第3版)
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80 点以上)、B (79～70 点)、C (60～69 点)、D (59 点以下) の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	保健体育	分野	基礎分野	講師名	久保田 豪
単位数	4単位	履修学年	1学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道の基本的な礼法を身につける。また、受け身を習得し安全に柔道を実施できるようにする。 柔道における「投げの形」を学び、柔道の素養を理解する。
授業内容	前受身、横受身、前回り受身 浮き落とし、背負い投げ、肩車、浮腰、払腰、釣込腰、送足払、支釣込足、内股 連続技、約束乱取、乱取 上記技の順序を考え安全に習得させる。
到達目標	1年生全員1級習得をめざす。授業内での重大事故ゼロ。
成績評価	実技試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道着、「柔道（基本・導入編）DVD」公益財団法人講道館
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 本校で11年間、また盛岡中央高校で7年間の指導経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	心理学	分野	基礎分野	講師名	内城 寛子
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	<p>社会に役立つ人材となるために、自己と他者の心の理解を深める。 特に自己の健全な心身育成、ソーシャルスキルの獲得、コミュニケーション能力や多様性に対する適応力を高めることを目的とする。</p>
授業内容	<p>1) 内省と自己理解 2) 人の心の理解・認知心理① 3) 人の心の理解・認知心理② 4) 心の健康とストレス対処 5) 社会性とライフスキル 6) コミュニケーションスキル 7) 発達とアイデンティティ 8) 学習と動機付け 9) バーンアウト 10) 競技における心理課題 11) 受傷後の復帰支援 12) 目標設定 13) コーチングとカウンセリング 14) ジェンダーと LGBT (多様性の理解) 15) チームワークとリーダーシップ</p>
到達目標	<p>医療支援者の一員として、自己と他者の心身の健康管理に寄与できる。 多様な価値観を修得し、コミュニケーション能力を高めることができる。 社会の一員として、社会性を修得する。</p>
成績評価	<p>試験の点数、小レポートの提出、授業態度を加味して評価する。</p>
教科書 教材	<p>作成プリントを使用。</p>
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80 点以上)、B (79～70 点)、C (60～69 点)、D (59 点以下) の 4 段階で評価する。</p>
実務経験	<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>
	<p>【内容】 岩手県内のスクールカウンセラーおよび機関の相談員として 12 年間従事した経験あり。現在は私立大学教員。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	解剖学 I	分野	専門基礎分野	講師名	高橋 滋美
単位数	2 単位	履修学年	1 学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師の臨床現場において、触診・鑑別の際の基本となる筋・骨格系の知識を習得させるとともに、専門分野の学習に繋がる知識の習得を目標とする。
授業内容	骨格系では、骨の役割や形状などについてプリントや図を用いながら、筋系では筋の起始・停止・作用について模型などで位置を確認しながら実施する。 適宜、小テストを行う。
到達目標	各骨や筋の形状、構造、作用について理解し説明ができる。 骨の形状を描写することができる。
成績評価	定期試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	解剖学（改訂版第2版） その他プリントを配布
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	解剖学Ⅲ	分野	専門基礎分野	講師名	小野寺 悟
単位数	2単位	履修学年	2 学年	履修学期	前・後期
授業方法	○講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	中枢神経系・末梢神経系の理解、頭頸部・胸腹背部・上肢・下肢の筋と神経の理解、感覚器としての外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器・嗅覚器の理解、体表解剖・映像解剖の把握を目的とする。
授業内容	神経系として、神経系総論・大脳皮質・大脳基底核・間脳・脳幹・小脳・脊髄・伝導路・脳神経・脊髄神経・自律神経系 運動器として、頭頸部の筋と神経・体幹の筋と神経・上肢の筋と神経・下肢の筋と神経 感覚器として、外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器・嗅覚器 体表解剖と映像解剖
到達目標	中枢神経系の構造を立体的に把握し説明できる。末梢神経系では脳神経・脊髄神経の経路とその運動器・感覚器との関係を把握し、自律神経系とその効果器の関係を説明できる。 感覚器系では外皮・視覚器・聴覚器・平衡器・味覚器。嗅覚器について説明できる。 体表解剖と映像解剖について理解し、応用できる。
成績評価	定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	解剖学（改訂第2版）ほか毎回講義内容のプリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ○無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	解剖学Ⅳ	分野	専門基礎分野	講師名	杉山 渉
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	「解剖学Ⅳ」では、正常な人体の形態・構造についての総復習を行い、医療科学分野における専門知識と技術を修得するための基礎とする。人が健康な生活をおくるためには、健康の維持・増進と疾病予防の科学的・合理的知識が必要であり、その基準となる正常な構造や機能を十分理解することを目的とする。
授業内容	「解剖学」は生理学、柔道整復理論その他の科目にとって非常に重要な学問である。今まで学修してきたことを総復習することにより国家試験合格につなげる。 1. 人体解剖学概説 2. 運動系 3. 脈管系 4. 内臓系 5. 内分泌系 6. 神経系 7. 感覚器 8. 体表解剖
到達目標	【実践力】 国家試験合格に達する知識力を身につける。 【生涯学習力】 復習を通して国家試験合格につながる知識を修得すると同時に、資格取得後にも有用な知識の吸収に努める。
成績評価	中間試験および期末試験の成績により評価する。
教科書 教材	「解剖学」（改訂第2版） 医歯薬出版株式会社
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	生理学 I	分野	専門基礎分野	講師名	三條 敏也
単位数	2単位	履修学年	1 学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	人体を構成する各器官系の働きや仕組みを理解し、正常な人体機能（生命活動）の理解を深めることを目的とする。
授業内容	生理学の各章のうち、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、及び栄養と代謝。
到達目標	人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。
成績評価	試験結果に基づき、出席状況、課題レポート、及び授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	生理学（改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する他、プリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	生理学Ⅱ	分野	専門基礎分野	講師名	三條 敏也
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	人体を構成する各器官系の働きや仕組みを理解し、正常な人体機能（生命活動）の理解を深めることを目的とする。
授業内容	生理学の各章のうち、呼吸器系、体温、内分泌系、生殖器系、及び骨。
到達目標	人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。
成績評価	試験結果に基づき、出席状況、課題レポート、及び授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	生理学（改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する他、プリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	生理学Ⅲ	分野	専門基礎分野	講師名	高島 浩一郎
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	身体の各部分の働きと仕組みを深く理解させることを目指す。その理解を基に、治療家としての仕事、および、他の教科の学習が、向上することが期待される。
授業内容	基礎、血液、循環、呼吸、消化・代謝、体温、排泄、内分泌、生殖、神経、筋・運動、感覚、防御、調節のそれぞれについて、働きと仕組みを説明し、視聴覚教材を活用して理解を深め、問題を解くことにより定着させる。
到達目標	身体の各部分の働きと仕組みについて、患者さんが質問してきた際にわかりやすく説明できるまで深く理解することを究極の目標とするが、授業ではとりあえず、小学生の兄弟姉妹がいると仮定した場合に、彼らが理解できるように説明できるまで深く理解することを目標とする。
成績評価	試験の結果を主に、レポート点を加味して評価する。
教科書 教材	生理学（南江堂）を教科書とし、手製プリントを参考資料として配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	生理学Ⅳ	分野	専門基礎分野	講師名	三條 敏也
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	前期・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	人体を構成する各器官系の働きや仕組みを理解し、正常な人体機能（生命活動）の理解を深めることを目的とする。
授業内容	細胞の機能、体液、血液、免疫系、循環器系、リンパ系、呼吸器系、消化器系、神経系、腎・泌尿器系、栄養と代謝、内分泌系、体温、生殖器系、骨の生理。
到達目標	人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。
成績評価	試験結果に基づき、出席状況、課題レポート、及び授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	生理学（改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する他、プリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	運動学	分野	専門基礎分野	講師名	清水 茂幸
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師に必要な、人間の運動に関わる身体の機能と構造について学ぶ。
授業内容	運動学の目的、運動の表し方、身体運動と力学、運動器の構造と機能、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢の運動、体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習などの内容を学び、正常時の身体の機能について理解する。
到達目標	①身体の運動の正しいメカニズムを理解すること ②臨床現場で遭遇する昇降について個別理解できるようにする。 ③国家試験に合格する知識をつけること。
成績評価	期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。
教科書 教材	運動学（改訂第3版）
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	分野	専門基礎分野	講師名	三條 敏也
単位数	1単位	履修学年	2学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	高齢者の生理学的特徴を理解し、加齢に伴う人体機能の変化に対する理解を深め、高齢者に多い疾患・障害の基礎的知識を習得することを目的とする。
授業内容	加齢に伴う人体機能の変化（神経系、運動器系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、皮膚）、高齢者に多い疾患・障害（フレイル、サルコペニア、認知症、骨粗鬆症、転倒、睡眠障害）、及び加齢と運動との関係。
到達目標	高齢者の生理学的特徴、加齢に伴う主な人体機能の変化、及び高齢者に多い疾患・障害について説明できる。
成績評価	試験結果に基づき、出席状況、課題レポート、及び授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	生理学（改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する他、プリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	競技者の生理学的特徴・変化	分野	専門基礎分野	講師名	清水 茂幸
単位数	1単位	履修学年	2学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師に必要な、発育・発達に伴う身体機能の変化について学ぶ。
授業内容	成長に伴うからだや運動能力の発達 (小児から青年期の発育曲線、小児期から青年期の発育の特徴、小児期から青年期の呼吸循環機能と運動、発育期の運動不足・過運動の影響、運動の発達と習熟) 競技者の生理学的特徴・変化 (トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化、トレーニングによる神経機構の変化、トレーニングによる姿勢調節能力の変化、眼球運動と姿勢制御) 上記の内容を学び、発育・発達に伴う身体機能の変化について理解する。
到達目標	①成長に伴う身体の発育・発達に関して正しく理解すること。 ②競技者のトレーニング後の身体の変化に関して理解すること。 ③国家試験に合格する知識をつけること。
成績評価	期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。
教科書 教材	生理学 (改訂第4版)
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、D (59点以下) の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	病理学	分野	専門基礎分野	講師名	増田 由紀子
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前期・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	疾病の概念を明らかにするため疾病の原因・各種の疾患の基礎知識を習得させる。
授業内容	教科書をわかりやすく要約したプリントを使用して解説を行う。なるべく板書し図解するよう努める。 →要点のまとめプリント（書き込み式）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。 →演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。
到達目標	必要な知識をしっかりと記憶し、応用できる。 国家試験レベルの演習問題が解ける。
成績評価	定期試験
教科書 教材	病理学概論（医歯薬出版） オリジナルプリント
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	一般臨床医学 I	分野	専門基礎分野	講師名	久保川 学
単位数	1 単位	履修学年	1 学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	<p>一般臨床医学の知識を身に着けることは医療を志す者にとって必須事項である。一見、柔道整復とは関係ないように思える疾患であっても、何らかの基礎疾患を有する患者さんに対しては慎重な対処が求められる。とくに高齢社会を迎えるに当たり、様々な基礎疾患を有する患者さんが今後さらに増えるものと考えられ、一般臨床を履修し、様々な疾患の知識を身に着けることが一層求められる。</p>
授業内容	<p>教科書に準じ授業を進める。具体的には教科書に準じたプリント資料を配布し、その資料に基いたスライドを用いて解説する。スライドや配布資料には教科書では不十分な解説図や写真等を加えて理解を促す。また、授業終了前には演習問題を提示し、学生自身に解答してもらい、様々な臨床所見について理解を深める。</p>
到達目標	<p>臨床医学の基本的事項を学習し、代表的疾患に関する知識を身に着けることにより、合併症のある患者さんの診察や治療の際の注意事項を理解し、適切に対処できるようにする。</p>
成績評価	<p>後期の中間試験、期末試験を行う。中間試験は 50 点満点、期末試験は 100 点満点とし、各学期の成績は中間試験の点数と期末試験の合計を 1.5 で割った点とする。合否判定は、各学期の成績で判定し、試験成績の全体が平均 60 点以上の者を合格とする。なお、試験は国家試験に準じた選択問題を中心に出题する。</p>
教科書 教材	<p>一般臨床医学 改訂第 3 版 (医歯薬出版)</p>
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80 点以上)、B (79～70 点)、C (60～69 点)、D (59 点以下) の 4 段階で評価する。</p>
実務経験	<p>【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無</p>
	<p>【内容】大阪医科大学付属病院、および関連病院にて、おもに一般外科、消化器外科に関する手術的治療に携わるとともに、内科領域の診療にも多く携わった。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	一般臨床医学Ⅱ	分野	専門基礎分野	講師名	久保川 学
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	<p>一般臨床医学の知識を身に着けることは医療を志す者にとって必須事項である。一見、柔道整復とは関係ないように思える疾患であっても、何らかの基礎疾患を有する患者さんに対しては慎重な対処が求められる。とくに高齢社会を迎えるに当たり、様々な基礎疾患を有する患者さんが今後さらに増えるものと考えられ、一般臨床を履修し、様々な疾患の知識を身に着けることが一層求められる。</p>
授業内容	<p>教科書に準じ授業を進める。具体的には教科書に準じたプリント資料を配布し、その資料に基いたスライドを用いて解説する。スライドや配布資料には教科書では不十分な解説図や写真等を加えて理解を促す。また、授業終了前には演習問題を提示し、学生自身に解答してもらい、様々な臨床所見について理解を深める。</p>
到達目標	<p>臨床医学の基本的事項を学習し、代表的疾患に関する知識を身に着けることにより、合併症のある患者さんの診察や治療の際の注意事項を理解し、適切に対処できるようにする。</p>
成績評価	<p>前期の中間試験、期末試験、および後期の中間試験、期末試験を行う。いずれも100点満点とし、合否判定は、各学期の成績で判定し、試験成績の全体が平均60点以上の者を合格とする。なお、試験は国家試験に準じた選択問題を中心に出題する。</p>
教科書 教材	<p>一般臨床医学 改訂第3版（医歯薬出版）</p>
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>
実務経験	<p>【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無</p>
	<p>【内容】大阪医科大学付属病院、および関連病院にて、おもに一般外科、消化器外科に関する手術的治療に携わるとともに、内科領域の診療にも多く携わった。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	外科学概論	分野	専門基礎分野	講師名	久保川 学
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	<p>外科学は臨床医学の中でもとくに手術的治療を要する疾患を取り扱う科であり、種々の外傷も含まれる。外科学概論では整形外科的疾患を除く、大小の外傷に対する評価とその緊急処置法を学ぶとともに、手術の基本としての消毒、麻酔、輸血、切開と縫合法などについても学習する。さらに手術を要する各臓器特有の疾患や臓器移植の基礎等も学習し、医療に携わる者としての診療の一助となる幅広い知識を身に着ける。</p>
授業内容	<p>教科書に準じ授業を進める。具体的には教科書に準じたプリント資料を配布し、その資料に基いたスライドを用いて解説する。スライドや配布資料には教科書では不十分な解説図や写真等を加えて理解を促す。また、授業終了前には演習問題を提示し、学生自身に解答してもらい、様々な臨床所見について理解を深める。</p>
到達目標	<p>外科学全般について学習することは、外科的治療の一端を担う柔道整復師にとって必要なことであり、とくに外傷治療を行う際の留意点に関する知識を身に着けることにより、診療に役立たせることができるようにする。</p>
成績評価	<p>合否判定は、各中間試験と期末試験の成績点数で判定し、全体が平均60点以上の者を合格とする。なお、試験は国家試験に準じた選択問題を中心に出題する。</p>
教科書教材	<p>一般臨床医学 改訂第3版（医歯薬出版）</p>
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>
実務経験	<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>
	<p>【内容】大阪医科大学付属病院、および関連病院にて、おもに一般外科、消化器外科に関する手術的治療に携わるとともに、内科領域の診療にも多く携わった。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	整形外科学	分野	専門基礎分野	講師名	小野寺 悟
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	○講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	総論においては、運動器の基礎知識、診察方、検査法、治療法について、理解させ、 疾患別各論においては、特に一般臨床医学の知識を踏まえながら各疾患の特徴を十分に理解させ、 身体部位別各論においては、解剖学的知識に裏打ちされた知識を習得させる事を目的とする。
授業内容	総論 1 運動器の基礎知識 2 整形外科診察法 3 整形外科検査法 4 整形外科的治療法 5 骨・ 関節損傷総論 6 スポーツ整形外科総論 7 リハビリテーション総論 各論 8 疾患別各論 A 感染性疾患 B 骨および軟部腫瘍 C 非感染性軟部・骨関節疾患 D 全身性 の骨・軟部疾患 E 骨端症 F 四肢循環障害 G 神経・筋疾患 9 身体部位別各論 A 体幹 A-1 頸部 A-2 胸部 A-3 腰部 B 肩甲帯および上肢の疾患 B-1 肩・肩甲帯 B-2 上腕・肘関節 B-3 前腕 B-4 手関節 B-5 手・手指 C 骨盤および 下肢の疾患 C-1 骨盤・股関節 C-2 大腿・膝関節 C-3 下腿・足関節 C-4 足・足趾
到達目標	総論においては診察方、検査法、治療法、骨・関節損傷等について総合的に理解できる。 疾患別各論においては各病態の違いを正しく把握できる。 身体部位別各論においては、解剖学的知識に基づいて説明できる。
成績評価	期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	整形外科学 (改訂第4版) ほか毎回講義内容のプリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、 D (59点以下) の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ○無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	リハビリテーション医学	分野	専門基礎分野	講師名	上濱 龍也
単位数	単位	履修学年	2 学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	リハビリテーションの概念、障害学、評価法や治療技術、高齢者などリハビリテーション医学の基本及びリハビリテーションスポーツについて学習するとともに、柔道整復師としての業務とのかかわりについて理解することを目的とする。
授業内容	リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態、障害の階層とアプローチ、リハビリテーション評価学・障害学と治療学、リハビリテーションの関連職種や治療技術、高齢者のリハビリテーション、運動器のリハビリテーション、リハビリテーションと福祉、障害者スポーツについて講義を中心に練習問題を解きながら学習する。
到達目標	リハビリテーションの理念や対象、障害者の実態や階層とアプローチについて理解できる。 リハビリテーションに関わる領域としての評価学や障害学、治療学、さらに高齢者、運動器などに対するリハビリテーションについて理解できる。 リハビリテーションに関連する職種、福祉についても理解できるとともに、障害者スポーツについても理解を深めることができる。
成績評価	中間試験・期末試験の成績により評価する。
教科書 教材	リハビリテーション医学 改訂第4版（南江堂）
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	衛生学・公衆衛生	分野	専門基礎分野	講師名	田沢 光正
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	人間集団を対象とする生態系を含めた健康や疾病について、その予防や健康増進について理解することを目的とする。
授業内容	主に国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政や衛生統計・健康指標、公衆衛生の概念、歴史、環境保全、感染症、産業保健・労働衛生など、集団における健康状態とそれに関連する要因の分布を明らかにする疫学的手法を学び、健康の保持・増進のための基本的知識と方法論について講義を通して習得する。
到達目標	医療人としての衛生学・公衆衛生学の基本的知識と方法論を習得し、医療現場において患者・利用者および他の医療従事者とコミュニケーションが十分にとれる。
成績評価	定期試験の成績により評価する。
教科書 教材	衛生学・公衆衛生学 改定第6版 (南江堂) 講師が配布する「まとめ」と「練習問題」
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、D (59点以下) の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	関係法規Ⅱ	分野	専門基礎分野	講師名	鈴木 星子
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業年限	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師が果たすべき役割や職業観、医の倫理について学ぶ。
授業内容	関係法規、社会保障制度についての復習を行う。 また、練習問題を各授業で行い問題の出題傾向を把握する。 3学期には演習問題を実施し、60%以上の正答率を出せるよう指導解説を行う。
到達目標	柔道整復師法、医療従事者の資格法、医療法について、国家試験出題レベルの問題や応用問題が解けるようになる。
成績評価	学期末試験の結果にて評価する。
教科書 教材	関係法規（医歯薬出版） 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）
備考	※評価についての特記事項 評価について：後期後半の出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、 D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道 I	分野	専門基礎分野	講師名	渡部 康光
単位数	1 単位	履修学年	2 学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道の基本的な礼法や技法を習得し初段を目標にし、心身の鍛錬を通して、柔道整復師としての人格の陶冶を目的とする
授業内容	道場にて準備運動、補強運動を行い、礼法、受身、投の形、約束乱取を行う。
到達目標	初段取得を目標とする。
成績評価	実技試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道着
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80 点以上）、B（79～70 点）、C（60～69 点）、D（59 点以下）の 4 段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道Ⅱ	分野	専門基礎分野	講師名	渡部 康光
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道の基本的な礼法や技法を習得し初段を目標にし、心身の鍛錬を通して、柔道整復師としての人格の陶冶を目的とする
授業内容	道場にて準備運動、補強運動を行い、礼法、受身、投の形、約束乱取を行う。
到達目標	初段取得を目標とする。
成績評価	実技試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道着
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	職業倫理	分野	専門基礎分野	講師名	萩野 裕子
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	後期
授業年限	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師が果たすべき役割や職業観、医の倫理について学ぶ。
授業内容	必要に応じてプリントを配布、Power Point なども利用しながら授業を進める。 理解度を演習問題で確認しながら進める。
到達目標	正しい職業倫理観を持った柔道整復師を育成する。
成績評価	後期後半の出席状況、授業態度を加味して総合評価する。
教科書 教材	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）
備考	※評価についての特記事項 評価について：後期後半の出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、 D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	社会保障制度	分野	専門基礎分野	講師名	松岡 靖
単位数	1単位	履修学年	2学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	わが国の社会保障制度の概略と、柔道整復療養費支給申請及び受領委任制度について理解させることを目的とする。
授業内容	社会保険制度（国民健康保険法、健康保険法、後期高齢者医療制度、労働災害補償保険法、介護保険法、公的年金） 社会福祉制度（生活保護法、老人福祉法） 国民医療費（国民医療費の状況、国民医療費の財源、年齢階層別国民医療費） 柔道整復師と療養費（療養の給付（現物給付）と療養費（現金給付）、療養費の支給条件、償還払い方式と受領委任払い方式、柔道整復師の施術に係る療養費の受領委任の取扱い、保険取り扱いの心得）
到達目標	社会保障制度の概略、柔道整復療養費支給申請及び受領委任制度について理解できる。
成績評価	定期試験の成績と各講義の課題を加味して評価する。
教科書 教材	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）ほかプリント配布します。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学 I	分野	専門分野	講師名	渡部 康光
単位数	2単位	履修学年	1 学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師として骨折や脱臼、捻挫、筋、腱などの軟部組織損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識の習得を目的とする。
授業内容	柔道整復術、人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎、骨の形態と機能、骨損傷の概説、骨損傷の分類、骨折の症状、骨折の合併症、小児・高齢者骨折の特徴、骨折の治癒に影響を与える因子、診察の手順、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置、固定法、後療法、頭部外傷
到達目標	骨折、軟部組織損傷の発生机序、症状、合併症、診断、後療法、固定法の基本を習得する。
成績評価	定期試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂） 他 プリント配布
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学Ⅱ	分野	専門分野	講師名	萩野 裕子
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	前・後期
授業年限	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	臨床で患者様に丁寧にわかりやすく症状や施術内容を説明できることを目的として、総論では関節、筋、腱、末梢神経の構造・機能と損傷の基礎的知識について講義する。
授業内容	教科書を中心に講義し、教科書記載事項の理解を深めるためにプリントを作成して配布、又は power point などを使用する。授業では毎回、前回授業の復習小テストを行い反復学習で内容理解の定着を図る。
到達目標	関節、筋、腱、末梢神経の構造・機能と損傷の基礎的知識について理解し、人に説明する事が出来る。さらに、各損傷の基礎知識に基づいて治療方法を自ら考える事が出来ることを目標とする。
成績評価	定期試験（前期中間・期末試験、後期中間・期末試験）の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論編改訂第7版（南江堂）、カラー人体解剖学（西村書店）、ネッター解剖学図譜（丸善）、解剖トレーニングノート（医学教育出版社）他
備考	※評価についての特記事項 評価について：前期中間・期末試験、後期中間・期末試験の点数及び出席率を勘案し、 A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 夏休みの課題レポートについては提出の可否で点数評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学Ⅲ	分野	専門分野	講師名	萩野 裕子
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業年限	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	臨床で患者様に丁寧にわかりやすく症状や施術内容を説明できることを目的として、各論では、頸部、胸・背部、腰部の脱臼、軟部組織損傷について、上肢の脱臼、軟部組織損傷について、その発生機序、症状、合併症、整復法、固定法などについて講義する。
授業内容	教科書を中心に講義し、教科書記載事項の理解を深めるためにプリントを作成して配布し、必要な時はPower Point や映像などを使用する。授業では毎回、前回授業の復習小テストを行い反復学習で内容理解の定着を図る。
到達目標	頸部、胸・背部、腰部の脱臼、軟部組織損傷について、上肢の脱臼、軟部組織損傷、その他必要な鑑別を要する類症について理解し、実際に臨床現場での問診、視診、触診などの施術の際の基礎知識として定着することを目標とする。
成績評価	定期試験（前期中間・期末試験、後期中間・期末試験）の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論編改訂第6版（南江堂）、カラー人体解剖学（西村書店）、ネッター解剖学図譜（丸善）、解剖トレーニングノート（医学教育出版社）他
備考	※評価についての特記事項 評価について：前期中間・期末試験、後期中間・期末試験の点数及び出席率を勘案し、 A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学Ⅳ	分野	専門分野	講師名	佐々木 智章
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	総論で学んだ知識を基礎として、具体的に各部位の損傷に関する知識の獲得を目的とする。
授業内容	教科書を基に、板書および対話形式、授業の補助資料としてプリント配布 頸椎骨折/胸椎骨折/腰椎骨折/胸骨骨折/肋骨骨折 鎖骨骨折/肩甲骨骨折/上腕骨近位端部骨折/上腕骨骨幹部骨折/上腕骨遠位端部骨折 前腕骨近位端部骨折/前腕骨骨幹部骨折/前腕骨遠位端部骨折/手根骨骨折/指骨骨折/中手骨骨折
到達目標	①症状等から損傷部位・損傷程度を想定することができる。 ②損傷名から想定可能な臨床所見を挙げるすることができる。 ③獲得した知識を実技で活かすことができる。
成績評価	定期試験の成績と出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論編改訂第6版（南江堂）
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、 D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	外傷の保存療法	分野	専門分野	講師名	高橋 滋美
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師が臨床現場において、鑑別診断に必要な知識を整形外科を中心に学習し、病態について知識の習得を目的とする。
授業内容	整形外科とは、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科的治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論リハビリテーション総論、疾患別各論、身体部位別各論 国家試験で出題傾向が多い内容を中心に講義を行い、その後問題演習にて知識の定着度・理解度の確認を行う。
到達目標	疾患の分類や代表的な臨床症状について理解し、柔道整復師術の適応疾患か否かを鑑別ができる。
成績評価	定期試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	整形外科学（改訂第4版） その他プリントを配布
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学Ⅴ	分野	専門分野	講師名	西村 卓一
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前期・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	3年次に控える国家試験を見据え、下肢の外傷の実際について学習して、負傷の要点を理解するとともに、臨床現場で活用できる知識の習得を目的とする。
授業内容	下肢全般の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学習する。
到達目標	下肢損傷の発生机序、症状、合併症、鑑別診断、後療法を理解して適切に対応できる知識を身に付ける事により、臨床現場での診察や国家試験問題を考察できるようになる事。
成績評価	定期試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を考慮して評価
教科書 教材	柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂）、同理論編 改訂第6版（南江堂）ほかプリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学VI	分野	専門分野	講師名	露久保 範昭
単位数	2単位	履修学年	3 学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	卒業・国家試験を控え上肢を中心とした骨折・脱臼・軟部組織損傷について合格水準までの知識を身につける。
授業内容	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷（スポーツ障害等を含む）についての発生機序、発生原因、症状、合併損傷、整復法、固定法、固定期間、検査法、後遺症など。 国家試験の提示問題でもある全体的な出題要素を含む事例の対応として、骨端症、絞扼性神経障害などの評価もできるよう鑑別所見などを含んでの授業とする。
到達目標	各種損傷、障害について国家試験合格レベルの知識の習得に加え、臨床現場での活用が適切にできる。
成績評価	試験結果を主体とするが、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・理論編（改訂第6版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版）、プリントなど
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復学Ⅶ	分野	専門分野	講師名	鈴木 星子
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復学の総論・下肢（骨折）について、国家試験出題レベルの問題に対応する知識を身につけることを目的とする。
授業内容	総論・下肢（骨折）全範囲の復習をし、最終確認を行う。 また、練習問題を各授業で行い問題の出題傾向を把握する。 演習問題を実施し、60%以上の正答率を出せるよう指導解説を行う。
到達目標	柔道整復学の総論・下肢（骨折）の各損傷について、国家試験出題レベルの問題や応用問題が解けるようになる。
成績評価	学期末試験の結果にて評価する。
教科書 教材	柔道整復学・理論編（改訂第6版）、同実技編（改訂第2版）ほか プリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義 I	分野	専門分野	講師名	松岡 靖
単位数	1 単位	履修学年	3 学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師が鑑別診断に必要な一般臨床医学範囲の病態について、柔道整復学の見地から総合的に学習し知識の習得を目的とする。
授業内容	診察概論 診察各論（医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状、検査法） 主要な疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患）
到達目標	診察の進め方、代表的な臨床症状、主要な疾患について理解し、柔道整復術の適応となる疾患を鑑別できる。
成績評価	定期試験の成績と各講義の課題を加味して評価する。
教科書 教材	一般臨床医学 改訂第3版（医歯薬出版） ほかプリント配布します。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義Ⅱ	分野	専門分野	講師名	高橋 滋美
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師が臨床現場において、鑑別診断を行うのに必要な知識を病理学を中心に学習し、病態について知識の習得を目的とする。
授業内容	病理学とは、疾病の一般、細胞傷害（退行性病変、代謝障害）、循環障害、進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応、炎症、免疫異常、アレルギー、腫瘍、先天性異常、病因 国家試験で出題傾向が多い内容を中心に講義を行い、その後問題演習にて知識の定着度・理解度の確認を行う。
到達目標	疾患の分類や代表的な臨床症状について理解し、柔道整復師術の適応疾患か否かを鑑別ができる。
成績評価	定期試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	病理学 改訂第3版（医歯薬出版） その他プリントを配布
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義Ⅲ	分野	専門分野	講師名	福沢 隆人
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	<p>施術所内の消毒や院内感染予防の消毒、感染症知識、医療経済などの公衆衛生学全般の知識習得を目的とする。</p>
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施術所内での院内感染や消毒に関する授業 ・ COVID-19 などの感染症に関する知識、予防方法、ワクチンに関する授業 ・ 国民医療費など医療経済に関する授業 ・ その他公衆衛生学全般に関する授業
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施術所内での院内感染や消毒に関する知識を習得する。 ・ 感染症に関する知識、予防方法、ワクチンに関する知識を習得する ・ 国民医療費など医療経済に関する知識を習得する ・ 公衆衛生学全般に関する知識の習得
成績評価	<p>出席、前期の中間期末試験、小テスト等で成績評価を行う。</p>
教科書 教材	<p>衛生学・公衆衛生学 改訂6版(南江堂)</p>
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、D (59点以下) の4段階で評価する。</p>
実務経験	<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>
	<p>【内容】</p> <p>群馬県高崎市の接骨院で3年の勤務経験</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義Ⅳ	分野	専門分野	講師名	西村 卓一
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	2年生で獲得した知識を整理し、整形外科学、リハビリテーション医学の基礎、応用的な知識の獲得を目的とする。
授業内容	国家試験で出題傾向が多い内容を中心にプレゼンテーションを用いた授業する。そして各授業で問題演習を解くこととする。
到達目標	①疾患から症状や治療法などを想定できることを目的とする。 ②得た知識で定期試験や国家試験に対応できる能力を獲得することを目的とする。
成績評価	定期試験（記述式・4者択一あるいは4者択二）※全授業に対して2/3以上の出席率があることを前提に評価する。
教科書 教材	リハビリテーション医学教科書（改訂第4版）、最新整形外科学大系（中山書店）
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義Ⅴ	分野	専門分野	講師名	鈴木 星子
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	運動学・病理学について、国家試験出題レベルの問題に対応する知識を身につけることを目的とする。
授業内容	中間試験までに運動学、期末試験までに病理学の全範囲復習をし、最終確認を行う。 また、練習問題を各授業で行い問題の出題傾向を把握する。 演習問題を実施し、60%以上の正答率を出せるよう指導解説を行う。
到達目標	運動学・病理学について、国家試験出題レベルの問題や応用問題が解けるようになる。
成績評価	学期末試験の結果・出席状況にて評価する。
教科書 教材	運動学教科書、病理学教科書の他、プリントを配布する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義VI	分野	専門分野	講師名	福沢 隆人
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	国家試験合格に必要な公衆衛生学、リハビリテーション医学の知識の習得を目的とする。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションアプリを用いた講義 ・問題演習 ・アウトプットを目的とするグループワークなどを行う。
到達目標	国家試験合格に必要な公衆衛生学、リハビリテーション医学の知識の習得を到達目標とする。
成績評価	出席、後期の中間試験、小テスト等で成績評価を行う。
教科書 教材	整形外科学教科書（改訂第4版）リハビリテーション医学教科書（改訂第4版）
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	<p>【内容】</p> <p>柔道整復師として勤務経験あり。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	特別講義Ⅶ	分野	専門分野	講師名	久保川学、松岡 靖、佐々木智章、 鈴木星子、萩野裕子、西村卓一、 福沢隆人、高橋滋美
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	集中講義 (夏期特訓)
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	国家試験合格に向け、夏期特訓講座にて国家試験科目の強化を図る。
授業内容	必修問題（柔道の歴史、関係法規、社会保障制度と職業倫理、柔道整復理論）、解剖学、生理学、運動学、病理学、衛生学、リハビリテーション医学、一般臨床医学、外科学、整形外科及び柔道整復理論
到達目標	各教科とも基礎知識を高め、国家試験合格レベルに近づく。
成績評価	出席状況、授業態度等により総合的に評価する。
教科書 教材	各教科使用教科書 ほかプリント配布します。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	物理療法機器等の取り扱い	分野	専門分野	講師名	西村 卓一
単位数	1単位	履修学年	1学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	3年次に控える国家試験を見据え、物理療法の実際について知り、適応症や禁忌と注意点について考え理解を深め臨床現場で活用できる知識の習得を目的とする。
授業内容	1.電気療法：低周波、中周波電流療法（干渉波療法）、その他 2.温熱療法：伝導熱療法、輻射熱療法、変換熱療法 3.光線療法：レーザー光線療法 4.寒冷療法：伝導冷却法、対流冷却療法、気化冷却療法 5.牽引療法：頸椎介達牽引、腰椎介達牽引 6.その他：間欠的圧迫法、その他
到達目標	物理的エネルギーによる生体反応を学習して物理療法の取扱い方法、禁忌を理解して適切に対応できる知識を身に付ける事により、臨床現場での診察や国家試験問題を考察できるようになる事。
成績評価	定期試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を考慮して評価
教科書 教材	柔道整復学・理論編 改訂第7版（南江堂）、最新整形外科学大系（中山書店）、標準整形外科学（医学書院）、理学療法学ゴールドマスター物理療法学（メジカルビュー社）、他プリント配布
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復術適応の 臨床的判定	分野	専門分野	講師名	松岡 靖
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復師が鑑別診断に必要な外傷について、柔道整復学の見地から総合的に学習し知識の習得を目的とする。 また、医用画像について理解を深める。
授業内容	柔道整復術の適否（損傷に類似した疾患、血流障害、末梢神経損傷、脱臼骨折、外出血、病的骨折および脱臼、意識障害、脊髄症状、呼吸運動障害、内臓損傷、高エネルギー外傷） 医用画像の理解
到達目標	柔道整復術の適否について理解できる。 医用画像について理解できる。
成績評価	定期試験の成績と各講義の課題のほか、出席状況、提出課題などを評価する。
教科書 教材	施術の適応と医用画像の理解（南江堂）ほかプリント配布します。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技 I	分野	専門分野	講師名	西村 卓一
単位数	2単位	履修学年	1 学年	履修学期	前期・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	3年次に控える認定実技審査と国家試験を見据え、基本包帯法・冠名包帯法の技術・走行・目的を学び、知識及び技術を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能の習得を目的とする。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定材料の説明、固定の意義、原則について ・ 肩関節、足関節、肘関節、手部の環行帯、螺旋帯、麦穂帯などの基本包帯 ・ デゾー包帯法、ヴェルポー包帯法、ジュール包帯法などの冠名包帯法 ・ クラメル副子などの固定材料を用いた包帯法 ・ 術者、助手、患者役など2～4名に別れて行う。
到達目標	臨床現場で遭遇することが多い肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼、肘関節後方脱臼などに対して素早く適切な固定が行えること。
成績評価	実技試験結果の他に、出席状況、レポートを加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂） 柔道整復学・理論編 改訂第7版（南江堂）、包帯固定学 第2版（南江堂）
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	<p>【内容】</p> <p>柔道整復師として実務経験あり。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技Ⅱ	分野	専門分野	講師名	鈴木 星子
単位数	2単位	履修学年	1学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	3年次に控える認定実技審査と国家試験を見据え、基礎的な測定法や検査法の実技を行うことにより、知識及び技術を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能の習得を目的とする。
授業内容	解剖学的用語説明（骨学・筋学・関節構造について）、関節可動域測定（ROM、関節角度計を用いた検査）、徒手筋力検査（MMT）、形態測定、感覚測定、反射測定（巻尺メジャーや打腱器を用いた検査）、体幹部・膝関節部の臨床徒手検査をグループで術者役・患者役・助手役を適宜分担して実施する。
到達目標	関節可動域、徒手筋力、形態、感覚、反射の正常と異常を理解し適切な判断ができる。 体幹部・膝関節部の損傷を理解しその検査法を実施できる。 患者への説明、助手への指示が適切に行える。
成績評価	実技試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を考慮して評価
教科書 教材	柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂）、同理論編 改訂第6版（南江堂）ほか プリントを配布する。東大式角度計、巻尺メジャー、打腱器、包帯、厚紙副子
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 宮城県内の接骨院にて柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技Ⅲ	分野	専門分野	講師名	松岡 靖
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	3年次に控える認定実技審査を見据え、同審査で行われる上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、整復法、検査法及び固定法を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能の習得を目的とする。
授業内容	骨折の部・・・鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折 脱臼の部・・・肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼 軟部組織損傷の部・・・腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷 ほか、上肢損傷の整復法・検査法・固定法を2～4名のグループで術者役・患者役・助手役を適宜分担し実施する。
到達目標	各損傷の発生機序、症状、合併症、鑑別診断、後療法を理解し適切に対応できる。 整復法、検査法、固定法について、適切な肢位・範囲にて材料を用いて実施できる。 患者への説明、助手への指示が適切に行える。
成績評価	実技試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・実技編（改訂第2版）、同理論編（改訂第6版）ほかプリント配布します。 包帯・クラーメル副子・厚紙副子・三角巾・テーピング等を使用する。
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として岩手県内の接骨院で勤務した経験有り。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技IV	分野	専門分野	講師名	高橋 滋美
単位数	3単位	履修学年	2学年	履修学期	前期・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	3年次に行われる認定実技審査合格を目標に、同審査で行われる上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、整復法・固定法・検査法を身につけさせ、また、座学的な学習も踏まえつつ、臨床現場においても活用することが出来る技能の習得を目的とする。
授業内容	骨折：上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、第5中手骨頸部骨折、肋骨骨折 脱臼：肘関節後方脱臼、肘内障、第2指PIP関節背側脱臼
到達目標	各損傷の発生機序、症状、合併症、鑑別診断、後療法を理解し説明することが出来る。 整復法、検査法、固定法を適切な肢位・ポジション・固定範囲で実施することが出来る。 患者への説明、助手への指示が適切に行うことが出来る。
成績評価	実技試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・理論編（改定第6版・7版）、柔道整復学・実技編（改定第2版） その他プリントを配布
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として実務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技V	分野	専門分野	講師名	露久保 範昭
単位数	2単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	認定実技審査および日常の診療で重要な損傷および障害の診断能力の向上を目的とする。 机上での講義に加えて実技動作を行うことでより理解度を深める。
授業内容	骨折の部（下腿骨骨幹部骨折、肋骨骨折など） 軟部組織損傷（大腿四頭筋打撲、ハムストリング肉離れ、膝関節側副靭帯損傷、膝関節十字靭帯損傷、膝関節半月板損傷、アキレス腱断裂、足関節外側靭帯損傷など） 2～4名のグループで受審者、患者モデル、助手役を構成しロールプレイではあるが臨床現場に準じた形式で行う。
到達目標	各損傷の発生機序、症状、合併症、鑑別診断、後療法等を理解し適切に対応できる。 整復法、検査法、固定法について適切な動作・判断・処置が材料等を用いてできる。 患者への説明、助手への指示が適切にできる。
成績評価	実技試験の結果を主とするが、出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・理論編（改訂第6版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版） 包帯、ホワイトテープ、厚紙副子、クラーメル副子など
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 接骨院開業期間 33年 スキー場メディカルスタッフ 25年

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技VI	分野	専門分野	講師名	露久保 範昭
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	認定実技審査に対する固定法を中心に包帯法、テーピング、副子固定などを行う。 固定そのものの目的、固定範囲、固定期間、続発症、後遺症なども理解しながらスピーディーかつ適切な動作を身に着けることを目的とする。
授業内容	骨折の部（鎖骨骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、第5中手骨頸部骨折、下腿骨骨幹部骨折、肋骨骨折） 脱臼の部（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方烏口下脱臼、肘関節後方脱臼、手第2指PIP関節背側脱臼） 軟部組織損傷の部（アキレス腱断裂、膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側靭帯損傷） 2～4名のグループで受審者・患者モデル・助手役を構成し、認定実技審査を想定し口述、動作を行う
到達目標	各損傷に対する固定の範囲、固定肢位、固定期間を理解し、適切な固定同Sが時間内にできる。 患者に対しての説明、助手に対する動作の指示が適切に行うことができる。
成績評価	実技試験の結果を主体とするが出席状況、授業態度などを加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・理論編（改訂第6版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版） 包帯、ホワイトテープ、厚紙副子、クラーメル副子など プリント
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 接骨院開業期間 33年 スキー場メディカルスタッフ 25年

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技Ⅶ	分野	専門分野	講師名	佐々木 智章
単位数	2単位	履修学年	3学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	認定実技審査に対する診察および整復法を行う。 外傷に対する知識の習得・定着はもちろん、それを利用した診察内容と方法、整復の方法をはじめ患者に対する姿勢を学ぶこと
授業内容	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・コレス骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 肘関節脱臼・肘内障・肩腱板損傷・上腕二頭筋腱損傷・ハムストリングス損傷 大腿四頭筋打撲・膝関節側副靭帯損傷・膝関節十字靭帯損傷・膝関節半月板損傷 下腿三頭筋損傷（肉ばなれ）・足関節外側靭帯損傷の診察と検査、整復法
到達目標	各損傷に対する診察内容と整復法を理解し、実践できる。 患者への説明、助手に対する動作の指示が適切に行うことができる。
成績評価	実技試験
教科書 教材	柔道整復学・理論編（改訂第6版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版）
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 整骨院勤務13年 施術管理者2年

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	柔道整復実技Ⅷ	分野	専門分野	講師名	萩野 裕子
単位数	1単位	履修学年	3学年	履修学期	前期
授業年限	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	柔道整復学で学んできた主な骨折・脱臼・捻挫・打撲、その他軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症や鑑別、整復、固定、後療法について総合的に理解を深める事を目的とする。
授業内容	演習問題を中心に授業を進めていき、必要に応じてプリントを配布、Power Pointなども利用しながら理解を深めていく。
到達目標	臨床現場において、様々な外傷やその他鑑別が必要な疾患について、治療をスムーズに進めることができることを目標とする。
成績評価	定期試験（前期中間・期末試験、後期中間・期末試験）の成績と出席状況、授業態度を加味して総合評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論編改訂第6版（南江堂）、生理学改訂第3版（南江堂）、カラー人体解剖学（西村書店）、ネッター解剖学図譜（丸善）他
備考	※評価についての特記事項 評価について：前期中間・期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師として勤務経験あり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	高齢者の 外傷予防	分野	専門分野	講師名	福沢 隆人
単位数	1単位	履修学年	1学年	履修学期	前期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	高齢者の身体特性、損傷も理解した上で、外傷を予防するための運動療法や固定などの能力の向上を目的とする。
授業内容	基本包帯法 運動療法 橈骨遠位端骨折について 2～4名グループで受診者・患者モデル・助手役を構成し、それぞれ確認を行いながら行う。高齢者の外傷を理解するうえで、必要な解剖学の座学の授業を行う。
到達目標	高齢者の特性を理解し適切に運動療法や固定を選択し対応できる。検査法、固定法について、適切な肢位・範囲にて材料を用いて実施できる。 患者への説明、助手への指示が適切に行うことができる
成績評価	実技試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論教科書（改訂第7版）柔道整復実技教科書（改訂第2版）柔道整復師と機能訓練指導 包帯・ホワイトテープ・厚紙副子・クラーメル副子など
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、 D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 群馬県高崎市の接骨院で3年の勤務経験があり。

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	競技者の 外傷予防	分野	専門分野	講師名	福沢 隆人
単位数	1単位	履修学年	1学年	履修学期	後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	競技者の身体特性、損傷も理解した上で、外傷を予防するための運動療法や固定などの能力の向上を目的とする。
授業内容	基本包帯法 運動療法 足関節捻挫について 二～四名グループで受診者・患者モデル・助手役を構成し、それぞれ確認を行いながら行う。 競技者の外傷を理解するうえで、必要な解剖学の座学の授業を行う。
到達目標	競技者の特性を理解し適切に運動療法や固定を選択し対応できる。検査法、固定法について、適切な肢位・範囲にて材料を用いて実施できる。 患者への説明、助手への指示が適切に行うことができる。
成績評価	実技試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学理論教科書（改訂第7版）柔道整復実技教科書（改訂第2版）競技者の外傷予防 包帯・ホワイトテープ・厚紙副子・クラーメル副子など
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 群馬県高崎市の接骨院で3年の勤務経験あり

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	臨床実習 I	分野	専門分野	講師名	西村 卓一
単位数	1単位	履修学年	1 学年	履修学期	前期・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	上肢・体幹・下肢の筋肉・骨・関節・靭帯を解剖学的に理解し適切な触察ができることを目的とする。
授業内容	2人1組で上肢・体幹・下肢の筋肉・骨・関節・靭帯の位置を確認して触察を実施します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 骨、筋肉、関節の位置を理解し、近接している部位の鑑別ができるようになる。 靭帯の緊張度や筋腱移行部の認識などが行えることを到達目標とする。
成績評価	小テスト、出席状況、臨床実習日誌の提出などを加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂）、同理論編 改訂第7版（南江堂）、解剖学 改訂第2版（南江堂）ほかプリントを配布する。
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	<p>【内容】</p> <p>柔道整復師として実務経験あり。</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	臨床実習Ⅱ	分野	専門分野	講師名	福沢 隆人
単位数	1単位	履修学年	2学年	履修学期	前・後期
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	2年次に行う外部臨地実習を見据え、臨床現場に必要な知識・技術の習得を目的とする。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部臨地実習に関する目標や「実習中にやってはいけないこと」などの設定 ・ COVID-19 対策についての説明(マスク着用、手指消毒、毎日の体調報告など) ・ 臨床現場で遭遇することの多い疾患(胸郭出口症候群など)の検査法 ・ 後療法や療養費の説明
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習中の目標設定や「実習中にやってはいけないこと」が明確になっている ・ COVID-19 対策(マスク着用、手指消毒)が日常化している ・ さまざま検査法や療養費についての説明が適切に行える。
成績評価	出席状況、臨床実習日誌の提出などを加味して評価する。
教科書 教材	柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂)、柔道整復学・理論編 改訂第6版(南江堂) 解剖学 改訂第2版(南江堂) 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版株式会社)
備考	<p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A(80点以上)、B(79～70点)、C(60～69点)、D(59点以下)の4段階で評価する。</p>
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	<p>【内容】</p> <p>群馬県高崎市の接骨院で3年の勤務経験あり</p>

令和4年度 シラバス【柔道整復学科】

盛岡看護医療大学校

科目名	臨床実習Ⅲ	分野	専門分野	講師名	臨床実習指導者講習会受講者、 各医療機関等の指導担当者
単位数	1単位	履修学年	2学年	履修学期	前期 (夏期休暇中)
授業方法	講義 ・ 実技 ・ 実習				

授業目的	臨床現場での実習を行うことで、より高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。
授業内容	(公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)を状況に応じて適宜実施する。
到達目標	(公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関して適切に実施できる。
成績評価	(公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関して各指導担当者が評価する。
教科書 教材	各施術所・医療機関等の指示による
備考	※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：(公社) 全国柔道整復学校協会臨床実習ガイドライン検討委員会編 「柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン」記載の評価項目(態度、付帯業務、診察、物理療法、施術の介助、固定、その他)に関し、総合的に A(80点以上)、B(79~70点)、C(69~60点)、D(59点以下)の4段階で評価する。
実務経験	【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無
	【内容】 柔道整復師としての実務経験あり。

